



MP RACING

auto sport Web Sprint cup SUPER GT SERIES SPECIAL ROUND

カテゴリー : auto sports Web Sprint cup
 エントラント : NILZZ Racing
 カーナンバー : 9
 マシン名称 : MP Racing GT-R
 ドライバー : JOE SHINDO・井上恵一

 開催地 : 富士スピードウェイ (静岡県)
 開催日 : 2019.11.22~2019.11.24
 天候 : 雨 (11.22) 雨/曇り (11.23) 曇り (11.24)
 イベント動員数 : 5,100人 (11.22) 22,600人 (11.23)
 24,100人 (11.24)

公式練習 1 : 2' 03.891 (11位)
 公式練習 2 : 2' 12.629 (6位)
 公式練習 3 : 2' 50.337 (11位)
 A Dr. 予選 : 1' 50.140 (9位)
 B Dr. 予選 : 1' 47.637 (6位)
 予選合算 : 3' 37.777 (8位)

Race1 : 10位 (27周)
 Race2 : 11位 (29周)

NILZZ
RACING FACTORY

ENDLESS

nismo

MOTUL



PIRELLI



” AUTOBACS 45th Anniversary presents SUPER GT X DTM 特別交流戦”（以下交流戦）が 2019 年 SUPER GT シリーズ戦の特別戦として 11 月 22 日から 24 日にかけて静岡県富士スピードウェイで開催され、そのサポートレースとして行われた GT300 クラス参戦車両を中心とした” auto sport Web Sprint Cup” に MP Racing GT-R が NILZZ Racing の 2 台目としてエントリーし、JOE SHINDO と井上恵一が参戦した。今回は特別戦という事でエントリーを SUPER GT のみならず他カテゴリーからも募った事で、スーパー耐久シリーズ（以下 S 耐）や SUZUKA 10H などの参戦車両も参加する事が可能となった。国内トップレベルの強豪揃いの中、” auto sport Web Sprint Cup” で MP Racing がどのような戦いを見せるのか。2019 年最後のレースウィークが幕を開けた。

11 月 22 日（金）公式練習

生憎の雨模様で始まったレースウィーク。まずは 9 時 10 分より公式練習 1 回目が行われた。

JOE は初めてのヨコハマタイヤで 4 周を計測、2 分 03 秒 981 をマークしこのセッションは 11 位につける。

その後も雨量は弱まることはなく、2 回目以降のセッションはヘビーウェットとなる。

公式練習 2 回目は先に行われた DTM 交流戦のセッション中に発生した霧の影響で 10 分遅れの 11 時 30 分にスタートした。

25 分間で行われたこのセッションは井上がステアリングを握り、非常に難しいコンディションで 2 分 12 秒 629 をマークして 6 位と SUPER GT レギュラー勢に割って入る。

13 時 00 分からの公式練習 3 本目は非常に滑りやすく、翌日に予選と決勝第 1 レースを控えていることから、悪条件下で無理に走行することはハイリスクであると判断。

セッション早々に走行を切り上げる事となった。





11月23日(土) 予選

今回の予選は第1ドライバー、第2ドライバーがそれぞれタイムアタックを行い、それぞれの合算タイムで第1レースのグリッドが決定するというS耐シリーズ戦同様の予選フォーマットで行われることとなった。

小雨の降るウェットコンディションの中、8時40分から公式予選が行われた。

まずAドライバーのJOEがアタックを行い、1分50秒140をマークし9番手につける。

そしてインターバルを挟み行われたBドライバー予選では井上が1分47秒637をマークし6番手。

合算の結果、トータル3分37秒777で8番グリッドを獲得。決勝第1レースは4列目よりスタートすることとなり、この後行われる決勝第1レースで中国からの追い上げに期待をかける。

11月23日(土) 決勝第1レース

今回は第1レース、第2レースともに50分間のレース時間、加えて途中ドライバー交代が義務付けと言ったレースフォーマットで争われる。

天候は回復する方向には向かっているもののまだ路面は濡れており、レーススタート後のコンディション変化をどう読むかが決勝第1レースの鍵となる。

グリッドへ向かう試走中も時折小雨が降っていた為、グリッド上ではスタートタイヤはドライか？ウェットか？と言った判断を全チームが迫られていた。

NILZZ Racingは未だヨコハマタイヤのスリックタイヤでの経験が無いJOEが滑りやすいこの路面で勝負をかけることはリスクが高いと判断し、ウェットタイヤでスタートすることになった。

1周のフォーメーションラップを終え、第1レースがスタート。

無事スタートを決めたJOEだが、序盤はバトルを展開するも、乾いていく路面はウェットタイヤの摩耗を急激に進めてしまう。





今回のレースは義務ピットストップを1度行うことが義務付けられているが『決勝レーススタート後20分から30分の間』と定められている為、ウェットタイヤを装着するJOEはタイムロスを最低限にするためにはピットウィンドウがオープンとなるまでウェットタイヤで我慢の走行を続けざるを得ない。

難しいコンディションに苦しめられ最後まで順位を落としてしまうことにはなったが、JOEはこの自らのステイントを走り抜いた。

ようやくレース開始後20分が経過。ピットウィンドウがオープンとなり、JOEは11周を終えたところで義務となるピットインを行った。

ドライタイヤに交換し、井上にドライバーチェンジを行ってコースに復帰。同じタイミングでピットインを行った244号車RC-Fに対しアンダーカットが成功し、11位でコースに復帰した。

井上はチェッカーまでの間、少しでも前に出るべく好ペースで周回を重ねていくが順位の変動には至らず。

MP Racing GT-Rは決勝第1レースを10位でフィニッシュした。

11月24日(日) 決勝第2レース

雨が上がり、強い日差しが差す好天の元で行われた決勝第2レース。

コース上に所々ウェットパッチが残り、ウェット宣言が為されてはいるがほぼドライコンディションと言っても問題ないほどまで回復していた。

昨日の第1レースの結果が決勝第2レースのグリッド位置となるため、10番手からのスタートとなったMP Racing GT-R。

スタートを担当するJOEはこの週末初めてヨコハマタイヤのスリックタイヤを装着してレースに挑むことになった。

しかしJOEはそんなハンディキャップを物ともせず、堂々とした走りを見せた。

ピットウィンドウがオープンとなり、13周を終えたところでJOEは義務ピットストップ消化のためピットイン。

井上へとドライバーを交代。タイヤ交換は行わずにコースに復帰する。





井上は安定した周回を重ねていくが、レース終盤、タイヤの摩耗が激しくなったのかペースが大きく落ちてくる。しかし井上のドライブにより MP Racing GT-R は完走を果たし、スプリントカップ第 2 レースを 11 位でフィニッシュした。

今回の auto sport Web Sprint Cup を無事終了する事ができて、これで MP Racing の 2019 年の全レースが終了となりました。

スーパー耐久シリーズのみならず、SUZUKA 10 や auto sport Web Sprint Cup と行った国内外の強豪と競う事ができ、非常に良い経験を積む事ができました。

最後までご支援とご声援、そしてご協力いただきました皆様には改めて感謝致します。

そしてより強力な MP Racing となって来シーズンも皆様の前で素晴らしいレースが出来るよう、更に努力を惜しまず頑張っております。

引き続きご支援とご声援、そしてご協力の程、宜しくお願い致します。

